全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	19-a1　現代経済と企業活動a		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	岡田　裕正	責任部局	経済学部
趣　旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的する。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って統一的に学ぶことが可能となる。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わない。経済や企業について広く関心を持ち、先人や他者から謙虚に学び、自主的に学習を進める意欲をもった学生の受講を希望する。また，日々の新聞やニュースを見たり読んだりすることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講しなければならない。		

科　目　名	担当者名	概　　要	キーワード
国際社会と日本経済	小山　久美子	国際貿易に関して、戦後、国際貿易体制を主導してきた米国を中心に、どのようなことが論点となってきたのか、その歴史を考察する。	歴史 国際貿易 国際貿易体制
企業行動と戦略	岡田　裕正	企業は戦略に基づいて行動するが、その前提として、投資意思決定や業績評価とそれに基づく利益計画がある。本科目では、これらの概要の説明と、簡単な例題による意思決定の基礎的手法の取得を講義内容とする。	戦略とビジョン 意思決定モデル 業績評価
企業情報と経済活動	鈴木　斉	企業では様々な場面で与えられた情報や収集した情報を元に分析・評価を行い、戦略的な意思決定をしている。本授業では、企業が問題発見時や問題解決時に必要となる分析・評価・意思決定する方法について学習する。	情報の非対称性 意思決定

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
国際社会と日本経済	○	○					○			○	○	◎		○
企業行動と戦略	◎	○		○	○	○		○	○			◎	○	○
企業情報と経済活動		○	○		◎			○	○			◎	○	◎
◎（特に重視）の数	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	1
○（重視）の数	1	3	1	1	1	1	1	2	2	1	1	0	2	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	19-a2　現代経済と企業活動b		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	工藤　健	責任部局	経済学部
趣　旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的する。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って点が線に、線が面に概観的に学ぶことが可能となる。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、学習を進めていくことに関心のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾けることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講しなければならない。		

科　目　名	担当者名	概　　要	キーワード
国際社会と日本経済	工藤　健	近代以降、国際貿易をめぐる国内外の対立が繰り返されてきている。この授業では，経済学の視点からこの問題に焦点を当てて、分析と議論を通じてこの問題の背景と本質を理解する。	国際貿易 国際金融 経済発展
企業行動と戦略	張　笑男	企業の組織形態、構造、戦略に関する様々なトピックを取り上げ、これらを考察することによって、現代経済と企業活動に関する理解を深める。本講義では各回グループワークを取り入れ，受講者の興味関心に沿うトピックを取り上げる。	企業の組織形態 企業の構造 企業の戦略
経営情報と会計情報	小野　哲	現実のビジネスにおいて会計の知識は不可欠である。この授業では、まず財務3表の基本的な内容を理解することを出発点とする。つぎに経営指標などの知識を習得し、実際の企業のデータを用いてベーシックな分析を行うことで、どのようにして企業の経営内容を診断するかについて学ぶ。	財務3表 経営指標 コスト 財務諸表分析

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
国際社会と日本経済	◎	○	○	○	◎		○	○	○	◎		◎	◎	○
企業行動と戦略	○	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎
経営情報と会計情報	◎	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎	◎	○
◎（特に重視）の数	2	1	2	1	1	0	0	2	2	1	0	2	2	1
○（重視）の数	1	2	1	2	2	2	3	1	1	2	2	1	1	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	19-a3　環境マネジメント		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	山下　敬彦	責任部局	研究開発推進機構
趣　旨	21 世紀市民のコモンセンスとして環境配慮への理解と環境保全に関する知識を修得し、人類の持続可能な発展（sustainable development, SD）を実現するための基本的な姿勢を身につけることを目的としている。そのため、日本のエネルギー事情、環境汚染物質マネジメント、エネルギー・マネジメント等を理解し、研究・開発や企業・法人等における管理業務にも役立つものとする。あわせて、長崎大学におけるエネルギー管理、廃液処理などの実際に触れさせることにより、化学物質の取扱い、実験廃液・廃棄物の処理、エネルギー管理などに関心をもたせ、コミュニティの一員としての自覚を促し、長崎大学のよりよい環境を実現する一助とする。		
学生の皆さんへのメッセージ	私達 21 世紀市民が目指すのは、人類の持続可能な発展（sustainable development, SD）です。そのためには、環境保全の実際を理解するとともに、環境配慮への理解を深めることが必要です。本モジュールは、そのような観点から環境保全に関する学習を行います。		

科　目　名	担当者名	概　　要	キーワード
エネルギー・マネジメント	山下　敬彦 藤本　登	エネルギー・マネジメントの実際を理解するとともに、エネルギーに関する長崎大学の現状と課題について理解を深め、長崎大学コミュニティの一員としてとるべき行動について理解を深める。	エネルギー・マネジメント、とるべき行動
有害化学物質のマネジメント	久保　隆 真木　俊英	有害化学物質のマネジメントについて理解するとともに、長崎大学における廃液処理の実際を見学し、長崎大学コミュニティの一員としてとるべき行動について理解を深める。	有害化学物質のマネジメント、廃液処理
廃棄物のマネジメント	竹下　哲史	廃棄物の処理に関する法律等を理解するとともに、廃棄物の分別を体験し、廃棄物のマネジメントに関する知識と理解を深める。	廃棄物の処理、廃棄物のマネジメント 長崎県

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
エネルギー・マネジメント	○	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎
有害化学物質のマネジメント	○	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○		○	○	◎
廃棄物のマネジメント	○	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○		○	○	◎
◎（特に重視）の数	0	3	0	3	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3
○（重視）の数	3	0	3	0	3	3	3	0	0	3	1	3	3	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	19-a4　社会と文化の多様性		
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	正本　忍	責任部局	多文化社会学部
趣　旨	グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に世界を知る必要に迫られている。そして、このことは必然的に日本（と日本人）を知ることをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。 本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパといった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、言語などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。		
学生の皆さんへのメッセージ	グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くことになります。「社会と文化の多様性」を学ぶことは、他者を理解し、自己を相対化することに繋がる知的な営みですし、そうした多文化状況で生き抜いていく能力を身につける上で必要なプロセスだと思います。		

科　目　名	担当者名	概　　要	キーワード
世界の中のヨーロッパ	正本　忍	ヨーロッパの文化と文明の影響力は今なお大きい。本講義では第一に、ヨーロッパ文化の基層について基礎的な知識を得る。第二に、ヨーロッパ文明が世界にもたらした影響を環境面において検討する。	ヨーロッパ 文化、文明 環境、歴史
宗教から見たアジア	伍　嘉誠	本講義は「宗教」を鍵概念として取り上げ、さまざまな宗教が社会文化の軸を担う東アジア地域（中国大陸、台湾、香港、日本、韓国）を事例として、グローバル化時代において宗教が果たしうる役割と多様性について紹介しながら、比較することを目的とする。	宗教、文化、東アジア、政教関係、社会、民間信仰
世界のことばの多様性	ルディ　トート	言語学各分野の観点から世界の各言語の様々な表現方法について考察する。日・英語から聞いたこともない言語まで「ことば」というものの多様性に驚きつつ、その表面下にある人間の普遍性を示唆する側面も探る。他言語のある特徴が、日本の共通語にはなくても長崎方言には見られるなどのケースを通じて、日本のことばの多様性についても考える。	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、長崎方言

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
世界の中のヨーロッパ	◎	○		○	◎		◎		○	◎	○	○	○	○
宗教から見たアジア	○	○	○	○	○		◎	○	○	◎	○	◎	◎	○
世界のことばの多様性	◎	○		○	○		◎		○	○	◎	○		○
◎（特に重視）の数	2	0	0	0	1	0	3	0	0	2	1	1	1	0
○（重視）の数	1	3	1	3	2	0	0	1	3	1	2	2	1	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールⅡ科目
テーマ名	19-a5　文化の交流と共生		
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	南　誠	責任部局	多文化社会学部
趣　旨	グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本（と日本人）を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。 本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。		
学生の皆さんへのメッセージ	グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くことになります。「世界を知り、日本を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。		

科　目　名	担当者名	概　　要	キーワード
文化人類学でみる世界と日本	細田　尚美	今を生きる私たちには、世界の様々な文化を背景にもつ人たちと交流し、ともに暮らすことが求められています。この授業では、異なる文化というときの文化とは何か、その基本を学ぶとともに、異なる文化を理解しようとする方法についても学びます。自分が慣れ親しんだ考え方からいったん離れて現実をとらえなおし、それを基にして新たな考え方が展開できるようになる力をつけましょう。	異文化理解、 エスノグラフィー、 文化人類学
国際関係論	ヌルガリエヴァリャイリャ	国際関係は人間関係と同じに複雑ですが、おもしろいです。この授業では、複雑な国際関係を理解することと国際関係に関する基本的な判断力を養うことを目標としています。現代の主要な国際問題（たとえば、平和、環境、難民、寛容など）の背景にある歴史、文化、思想、経済の変化はどのように国際関係の学際的な枠組みを作り上げるのかを検討しましょう。	平和と紛争、 国際移民、 グローバル化、 人間の安全保障
アジアにおける人の移動と日本	南　誠 李　偉	人の移動が活発に行われる今日のグローバル社会を生きる誰もが、人の移動によって生じる諸問題に直面する。この授業ではアジアという地域に焦点を定めて、人の移動にかかわる諸現象（移動の歴史、移動をもたらす諸要因や、人の移動による文化交流と新たな社会空間の生成など）を講義することで、アジアと日本の多文化状況や、異なる言語と文化を持つ人々との共生と協働について理解を深めます。	移民・難民 エスニシティ 社会的包摂と排除 多文化共生 境界文化

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
文化人類学でみる世界と日本		○		○	○		◎	○	○	◎	○		○	○
国際関係論				◎	◎		◎	○	○	◎	○		○	○
アジアにおける人の移動と日本	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	○
◎（特に重視）の数	0	0	0	1	1	0	3	1	0	3	0	1	1	0
○（重視）の数	1	2	1	2	2	1	0	2	3	0	3	0	2	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目